

はじめに — 「幸せ家族」の住まい選びから見えてきたこと —

【注意】この本には極めて当たり前のことしか書かれていないので該当する人は退屈するだけなので読まないでください。

私は職業柄、たくさんのご家族の住み替えに携わってきました。

「今決めないと、売れてなくなってしまうよ」

当社のホームページを見て、無料相談に申し込まれてくる方の多くが、巷の不動産会社の営業マンに煽られて煽られて……、住まい選びに疲れている方が多いです。

せっかく、楽しいイベントであるはずの住まい選びが、多くの方の表情が暗く笑顔すら消えてしまっています。

ここで突然ですが、「引き寄せの法則」というのを聞いたことはあるでしょうか？

これは決して難しいものではなく、「類は友を呼ぶ」ということです。

家を売りたい営業マンも、家を買いたい顧客も、結局は「家」という見えるものにこだわり、視野狭窄状態に陥っているから、実は同じ土俵に立っている「似た者同士」に見えてくるのです。

幸せな家族は、決して家 (House) というものではなく、家庭 (Home) を大切にしています。

こうした観点を持つている私が面談をすると、みな口を揃えて、

「住まい選びの常識が覆された」

「目から鱗が落ちた」と笑顔で言われ、ワクワクした気持ちで住まい選びを再開されます。

そうなのです。

裏返すとこれは、実に多くの方（相談者の9割以上）が常識や思い込みにとらわれて、住まい選びをしてしまっているということです。

「常識とは、18歳までに身につけた偏見のコレクションのことを言う」

ドイツの理論物理学者であるアルバート・アインシュタインの言葉です。世の中の大半の人は、育った環境や親の教育によりさまざまな常識が作られた枠の中で思考して生きています。

(出典：名言DB 『アルバート・アインシュタイン』 <https://systemincome.com> 2018年1月3日15時00分確認)

裏を返せば、新しい価値観を身につけることはそんなに難しくはないです。

つまり、新たな価値（常識）を受け入れること、それは上書きできるのです。

都会だからマンション。

戸建は庭の手入れが大変。

本当にそうでしょうか？

思い込みの枠を取り払い、ありのままの事実を受け入れて、本質的な思考に辿り着くことで、「家」探しの新常識に巡りあうことができます。

どうして、私がこのように、常識にとられず自由な思考ができるのか……。不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれないので、少しだけ自己紹介させていただきます。

私は自分と相手がともに満足し、また社会貢献もできるのがよい商売であるという、近江商人の心得をいった「三方善し」の精神に忠実な生き方を目指しています。

幼少期から自然豊かな信州の山里で過ごし、澄んだ星空を眺めているうちに、自然と宇宙空間から地球を俯瞰する視点が生につき、長期的かつ広域的な視野で物事の本質を思考するようになりました。

また、東京都および横浜市で10年間、公務に従事して都市計画部局を歴任。その後、東京と鎌倉の資産運用会社で6年間勤務をして、日本人にとって不動産は資産の大部分を占めるものであり、適正な取得と管理の重要性を実感しました。

その最中の2011年3月、東日本大震災で多くの不動産が災害に見舞われました。

現場を目の当たりにした際、「まさかこんなことになるなんて」という住民の方々の言葉に、地盤の強

弱や災害リスクといった、不動産選びの際の基本的な知識や情報が欠落している中で、購入可否の判断がされている状況に愕然としたのです。

そこで、これまでの公務と民間の経験を活かし、「正しい不動産知識の普及啓蒙」をする必要性を痛切に感じて、社団法人設立にいたったのです。

個人に対する適切な不動産知識の普及啓蒙と、法人に向けた人としてあるべき商教育の普及を実践することを通じて、日本全国どここの不動産会社やハウスメーカーに行っても、顧客本位の適切な不動産情報の開示とマッチングが受けられる世の中を目指し、不動産・建築業界の健全化に向けた取り組みに注力しているのです。

それと同時に、子や孫の世代が今よりも平和な世の中であることを願い、社団法人に蓄積する余剰利益は積極的に世の中にお返ししていくスタンスを貫いていて、世界平和活動に貢献しているNPO団体や、自然保全活動団体に寄付や支援を行っています。

その寄付先の視察で、アフリカの紛争地域やカンボジアの地雷原などを毎年、訪問。現地の人と話す

ことも多く、世界から見える日本に衝撃を受けたのです。

「なぜ日本はモノや食べ物があふれているのに、毎日電車で飛び込む人がいるの？ 私たちは決して、モノはないけど心はすごく満たされて、豊かです」

たしかに、現地の人たちはみな、満面の笑みを浮かべています。過去に想像を絶するつらいことがあったとしても、ちゃんと前を向いて明るく生きています。

その強さの源泉は为什么呢？

1つだけはつきりしていること。

それは、現代の日本人がなくてはならないと思いついでいる「モノやおカネ」ではないということです。

言い換えれば「モノやおカネ」といった、目に見えるものはなくとも人は十分、笑顔で暮らせます。いや、ともすると、なまじモノやおカネがあるから、深く考えることをせず、常識の枠の中で惰性に生き

てしまっているのかもしれませんが。

日本人の自殺率は、ひと頃よりは下がりましたが、近年も世界第20位前後で推移しており、先進国では群を抜いて高い状況です。以前は50歳以上が多かったですが、最近の傾向として自殺願望をシェアするサイトなどで若年層が急増しています。

未来に希望を持つて生きるはずの若者が、死を選択する事実。日本の現状に目をそむけなくなるのか
もしれません。

人とはどういう存在か。

生きるとは何か。

こうした本質的なことを考えることで、今までの常識や思い込みから解放されて、自由な思考を手に入れることができます。まさに「常識の断捨離」です。

さあ、あなたも私との住まい選びを通じて自由な思考を手に入れて、笑いが絶えない生き方と出逢う旅に出ましょう！

山田剛司（著）